



ふうの木のある学校からⅡ

高鍋町立高鍋西小学校 学校だより 8月号 文責 校長

「自分で気持ちを整える力」

(5年後・10年後を想像して・・・)

例えば、

「〇〇ちゃんが、遊んでくれなかった。」

と子どもが泣いて帰ってきたとき、

「次はこうしよう」

とアドバイスしようとしたくなったり、

「〇〇ちゃんは、なぜ遊んでくれなかったのか」

と思いを巡らせたくなくなったりしませんか？

その時、

「それは残念だったね。今、どんな気持ち？」

「どうしたら、楽になるかな？」

と、問いかける方法が効果を上げる というねっと記事を読みました。

「泣いちゃダメ」「怒っちゃダメ」等と、コントロールするのではなく、「自分の感情と上手に付き合う力」を育てていく。それが、子どもたち自身による人間関係に向き合う力(調整力)の土台になっていくとの考察も付加されていました。

時計の改修

夏季休業中に、3か所(校舎運動場、職員入口、講堂入口)の時計が新しくなりました。

時間の区切りにチャイムが鳴る学校ですが、子どもたちには、将来的に「時計を見て行動できるようになってほしい」と思っていました。

西中学校では、「ノーチャイム」制を導入していることから、今回の改修はとても意義あるものだと考えています。

古い校舎ですので、補修・改修・新調の必要な箇所があります。

予算面で配慮していただくよう、今後も町教委や町当局と相談していきます。

戦後80年

8月6日、8月9日、8月15日・・・。

いつの間にか、毎年「黙とう」をするのが当たり前のようになりました。

その日、その時間に、サイレンが鳴り、どれだけの大人や子どもが立ち止まり、その出来事に思いを巡らせたことでしょうか？

今年は、80年前に起こった出来事を語り継ぐとする人々が紹介される新聞・報道をたくさん目にしました。

今の日本の状況や世界の情勢が、80年前と似ていると危機感を訴えるコメントもありました。

太鼓づくり

鹿児島で太鼓作りをしている方の講演を聞く機会がありました。

実際に太鼓を作る作業を披露しながら、子どもたちに語った経験を紹介する形で話が進められました。

「牛を殺して、太鼓を作る」

という言葉が独り歩きして、ありもしない噂や偏見が生まれ、いじめや差別が生じてしまう危うさを淡々と語られました。

- ①「なぜ?」「どうして?」を問う必要性
- ②「知らないこと(知ろうとしないこと)」が差別や偏見を生むこと
- ③「語彙力・理解力・聞く力」を身に付けること

の大切さを 改めて学びました。

2学期に向けて

体育倉庫・理科室・講堂等の備品整備
校務部の取組に係る反省及び改善
生徒指導上の諸課題についての共有
学年担任制の取組に係る成果と課題の共有
主体的な学びを促す授業改善についての研修
運動会運営や修学旅行に係る打合せ
ICT等個人の力量を高める研修会への参加
外部からの講師を招いての講話・演習
「総合的な学習の時間」や「学級活動」、「歴史教育」等の指導計画の見直し
非常時のマニュアル改善(集団下校や児童受け渡し、不審者対応)等・・・

夏休み、子どもたちがいない学校で、先生方は1学期の成果や課題をもとに2学期に向けての準備を進めてきました。

ここに書き出したのは、ほんの一例です。

- ①「子どもたちの安全安心」
- ②「指導や支援の改善」
- ③「学校でできること、できないこと」
- ④「保護者や地域の皆さんとの連携」
- ⑤「予算や施設整備に関わること」

等、例年、多様な観点で検討を重ねていくことで、一つ一つの手立てに磨きをかける努力をしています。

特に①・②においては、学年全体や学校全体で対応する際に、子どもたちの情報やアンケート調査結果を全職員で共有しておく必要があります。

もちろん、知り得た情報は、法律(守秘義務)に従って指導支援のためだけに用いるわけですが、保護者の皆さんにも、再度確認いただきたいと思います。

2学期終わりには、また成果や課題を検討します。12月末ですが、来年度に向けた取組についても、同時に協議を始めていく予定にしています。

常に「意図」や「ねらい」をもって手立てを講じていきますので、ご理解ご協力、そして、前向きなご指摘お願いします。

「やってもいいもの何？」

子どものやる気を引き出すには、言葉の使い方が重要です。

子どもが学校から帰ってきて、すぐに
「宿題をやりなさい」
というよりは、
「やってもいいものは何？」
と聞く方が効果があるようです。

「漢字練習ならやってもいい」
と言ったら、漢字練習から
「音読ならやってもいい」
と言ったら、音読から始めさせます

自分で考えて、少し行動することで弾みがつき、次のステップに進んでもよいかなという思いが芽生えやすくなります。

より良くなるために

2学期は、学校だけでなく、地域においても、たくさんの行事が計画されています。

それぞれの行事に、主体性を培ったり、参加者同士が交流したりする等の、ねらいがあります。

運動会を例に挙げると、

- ① 運動会は何のために行われ、どんな言動が必要なのかを理解し、行動の仕方を身に付ける。
- ② 運動会に参加するために、学年学級や個人課題を話し合い、折り合いを付けたり、意思決定したりする経験をする。
- ③ 運動会という集団活動を通して身に付けたことを活かして、これからの集団生活や人間関係をより良くしようとする態度や、自分の生き方についての考えを深めようとする姿勢を養う。

「〇〇より速かった、〇〇の演技は上手だった、〇団が勝った」といった部分だけではないことを、ご承知おきください。